

余市町防災ガイドマップについて

このガイドマップは、災害への日ごろの備えや大雨による洪水・土砂災害・地震などといった自然災害が起きたときにどのような避難行動をとればよいかを住民の皆さんにわかりやすく提供することを目的として作成したものです。

災害はいつ発生するかわかりません。いざというときに落ち着いた行動をとれるように、前もって家族全員で、ハザードマップの確認や「マイ・タイムライン」を作成しましょう。

目次

はじめに 1	避難する 10~14
防災・減災とは 2	マイ・タイムライン 15~16
災害を知る	わが家の防災メモ 17
<ul style="list-style-type: none"> 風水害 3 土砂災害 4 雪害 5 地震 6~7 津波 8 	ハザードマップ
	<ul style="list-style-type: none"> ハザードマップの見方 18~20 【風水害・土砂災害】 21~34 【地震・津波】 35~44
備える 9	情報収集 45~46

地域の防災・減災活動を進めていくためには、災害と地域の両方について知り、継続的に備えることが大切です。災害の想定は研究や技術の進展などによって更新されますし、地域の人や物も変化していきます。まずは、この冊子の新しい情報を確かめながら、自分や地域の備えについて見直してみましょう。そして、季節ごとに避難経路を確認するなど、日常の中に防災・減災のエッセンスを取り入れながら、無理なく備え続けていきましょう。

協力: 定池 祐季 氏

東北学院大学地域総合学部政策デザイン学科 准教授

奥尻島で北海道南西沖地震を経験したことをきっかけに災害研究を志し、被災者支援、災害復興、地域防災に関する研究と防災教育の実践に取り組む。専門は災害社会学で、北海道胆振東部地震で被害を受けた厚真町をはじめ、各地で防災教育と心のケア、被災地支援活動にも携わっている。



▶ 防災・減災とは

防災、減災の考え方

災害の発生を防ぐことはできませんが、普段から災害について知り、備えていくことによって、被害を防いだり、小さく・少なく抑えたりすることができます。これが防災・減災の考え方になります。

自助・共助・公助とは

防災・減災に取り組んでいくためには、自助、共助、公助が下の図のように有機的に連携していくことが大切です。

自助 ... 「自分のいのちは、自分で守る」ために行う準備や行動を指します。

共助 ... 「地域のコミュニティやグループで助け合う」ことを指します。

公助 ... 「町や公的機関が個人やコミュニティの生命・財産や暮らしを守るために行う活動」を指します。

これら3つの要素をバランスよく組み合わせることで、災害に強い街をつくることができます

これらはそれぞれが重要な役割を果たすものであり、一つが欠けても防災・減災はうまく機能しません。だからこそ、自助、共助、公助の重要性を理解し、それぞれを適切に活用することが必要です。災害そのものを防ぐことは不可能ですが、私たちは自助、共助、公助の力を結集し、災害のリスクに立ち向かう準備を整え、それぞれの役割を理解し、行動に移すことでより安全で安心な街をつくることができます。



▶ 地域の力が救助に生きる

平成7年に発生した阪神・淡路大地震の震源に近い北淡町(現淡路市)や、平成26年の長野県の地震で被害を受けた白馬村では、ふだんの近所づきあいや防災活動を活かして、すばやい安否確認、救助活動が行われました。

